若手コーナー

医療IT製品の実際

浦崎整形外科クリニック　浦崎　貴志

平成16年に開院して早くも5年目に入りました。今回は若手コーナーの場をお借りして当院で運用している医療IT製品の実際をご紹介します。これから開院や導入を考えておられる先生方の参考になれば幸いです。

他の開業の先生方と同様に当院でもカルテ保管庫、レントゲンフィルム保管庫の省スペースを考え、開院当初より電子カルテ、レセプトコンピュータ、CR・画像ファイリングシステムを導入しました。電子カルテ・レセコンは開院前に沖縄県医学会会場でデモンストレーションされていたSRL社（現在はCMS社に移管）の電子カルテと日本医師会のORCAレセコン、CRは富士フイルム社のデジタル画像システム、画像ファイリングシステムはPSP社のシステムを導入しました。いずれも開院前に実際に運用されている開業医の先輩方の施設で見学させていただきました。

電子カルテはペンタブレットで入力でき、定型文や約束処方・処置リストを登録しておけばそのままコピーできるのですばやく指示が出せます。患者さんに対する処置を入力後、A5用紙にプリントアウトし看護師が内容を確認して私の処置の介助や点滴静注などを実施します。処置の完了後はA5用紙を保存します。ORCAレセコンとの連携もスムーズで会計処理もしっかりしています。ただ、機能が豊富なのはいいのですが実際の診療の流れに合わず使っていない機能もあります。個々のクリニックにあわせて機能を選択できればソフト自体も軽くなりトラブルも起こしにくくなるのではないかと思います。開発元に問い合わせたことがありますが、個別の機能選択はなかなか難しいようです。ORCAレセコンは導入コストが低く、種々の帳票も豊富で経理や決算時に助かっています。開院後2度大幅な診療報酬改定がありましたが、電子カルテ・レセコンともに改定前の年度内にCD－ROMやインターネットを経由して新しい診療報酬の内容に対応できていました。

CRはコンパクトな設計で場所をとりません。モニターのタッチパネルで患者情報を入力し専用のカセッテでX線撮影を行います。撮影後のカセッテを本体に挿入するとデジタルで画像を読み込み、画像ファイリングシステムのサーバーに画像データを送信、診察室の電子カルテで画像を呼び出し表示する仕組みです。画像を表示するモニターは少々値は張りますが高解像度のモニターを選択した方がフィルムと同様な診断が可能だと思います。整形外科の性質上、当院では身体各部位の撮影が多くカセッテも各サイズを使用しますが、今のところCR本体の大きなトラブルはありません。他院への紹介や自賠責の書類作成などでフィルムが必要な場合は専用のプリンターでB4のフィルムにプリントアウトします。また豊見城中央病院、那覇市立病院、県立南部医療センターなどからの紹介患者さんが持参するCD－Rの画像データも当院の画像ファイリングシステムに取り込むことができるので便利です。さらに、定期的に自動でDVD－Rにサーバーの画像データのバックアップを行ってくれます。

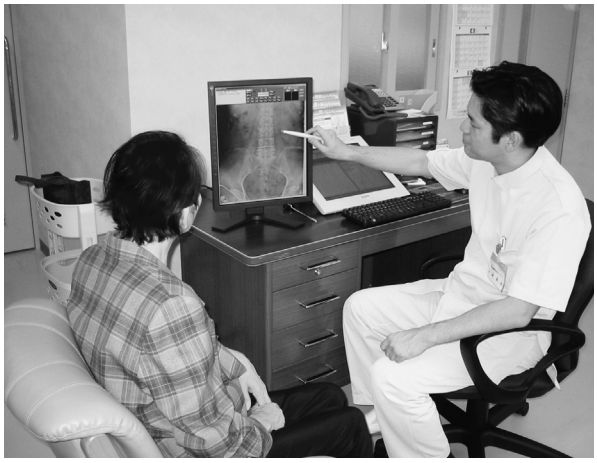
平素は使い勝手も良く非常に重宝している電子カルテ、レセコン、画像ファイリングシステムですが、コンピュータのハード類はやはり消

耗品で、5年目になるとさまざまなトラブル、アクシデントが生じてきました。早く生じた例では3年目で電子カルテサーバーのトラブル（診療中に「コンピュータが固まる」）やレセコンの会計処理・帳票印刷ができず患者さんを待たせてしまうという事態がありました。こういう事態の場合、まず遠隔操作で電子カルテメーカーの処理が入ります。これで解決不可能な場合は県内業者の担当者が来院し直接処理にあたります。

当院の事例は短時間で解決しなかったため電子カルテサーバーの代替機を設置してもらい対応しました。また、トラブルではありませんが「コンピュータの反応・処理が遅い」という現象も起こりました。個人で使用するコンピュータと同様な症状で、扱うデータ（患者情報）が増えたためアクセスに時間がかかっていたようです。これは電子カルテサーバーを増設することで対応できましたが、それなりにコストがかかりました。当初より予測できれば開院時にまとめてメーカーと交渉できたと思います。メーカーも最近ははじめからサーバーを増設したり容量を増やすように勧めているようです。

画像ファイリングシステムでも4年目にサーバー本体の電源ユニットが故障する事態が起こりました。こういう事態に備えて元々2機の電源ユニットが搭載されており、故障箇所の交換で解決しました。また、実際の運用面での利便性として電子カルテ・レセコンで患者さんを受付し情報を入力した時点でCRのコンピュータに情報を連携できればX線撮影時間もさらに短縮できると思います。この点を導入前に確認できればよかったと思っています。

医療IT製品は非常に便利で特に省スペースが図れる点は有用と思いますが、ハード類は消耗品でトラブルを生じたり、いずれ買い換えの時期を迎えることを考えながら運用しています。特にトラブル時は診療がストップし利益の損失にもつながりかねません。導入時はコストを押さえることや使い勝手も大事ですが、信頼できアフターサービスをしっかりと行ってくれるメーカー（国内でのシェアの大きいメーカー）を選択することが最も重要だと実感しています。



原稿募集！

本の紹介コーナー（1,500字程度）
感動した、生き方が変わった、診療が変わった、新たに真実を知った本等々、会員の皆様の座右の本をご紹介ください。